

さくら茶屋は今月で15年目を迎えます

引き続きまちの居場所に



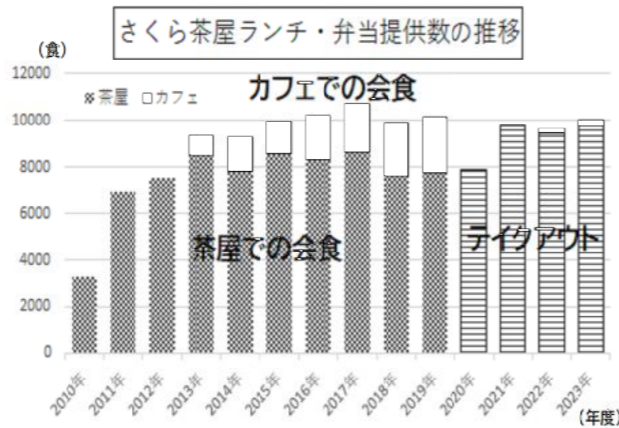
「さくら茶屋」はこの5月17日で15年目に入ります。この間、地域の方々にはご利用、ご支援いただき本当にありがとうございました。これからも一日も長く「まちの居場所」として継続できるよう努力します。



バス旅行途中の茂林寺にて

西栗の桜が倒木の恐れがあったことから「ソメイヨシノ」から「ジンダイアケボノ」に植え替えられた年、くしくもその年が「さくら茶屋」開設の年となりました。今年15年目に突入します。この間、新型コロナという飲食業にとつては大打撃の出来事に遭遇したものの、地域みなさんのご協力やご支援もあり、下表のように「ランチの提供数」が大きく落ち込むことなく営業継続ができていることにスタッフ一同深く感謝しております。

確かにこの4年間は、テイクアウト中心の営業となり、当初目的とした「家を飛び出し、お近くの方々と食でつながろう」という機会が大きく後退しているという残念な状況です。ただ、十数年も



4月の句会から さくら句会 ○ 瓶詰めの開かぬままに桜咲く 佐久良 ○ 春の雲雲引連れて雲を追ふ 竹仙 ○ 公魚や小さき命伝心系 眞青



金沢区生誕の日(5月15日)を祝い、賛同者が金沢区内のあらゆる所で催しものなどを開催します。皆さんふるってご参加下さい

日時: 5月19日(日) 13時~16時 場所: にししば「さくらカフェ」 参加費: おひとり100円

参加申し込みは5月10日まで、さくら茶屋ホームページ(上記QRコード)で受け付けます。応募フォームよりお申し込みください。尚、会場の関係で応募者多数の場合は抽選となる場合がありますのでご了解ください。

金沢区生誕の祝い!

西栗「まちの未来研究会」も参加、さくら茶屋が協力します

小学生対象に ご当地かるた「カナかる!」を使ってのかるた大会「ナンジャモンジャ、カタカナシ、ITO等」のカードゲームこうしたゲームを参加者で競いあい、高ポイントを獲得した方には賞品が授与されるイベントです。

「さくら茶屋」子どもイベントページ QRコードです



え いきなりサップと出てきたので調べてみた。平潟湾は昔には広い入り江だったようで塩田もありました。平潟湾の沿岸には戦時中、海軍の重要な施設が埋め立てられ、平潟湾は狭められてゆきました。野島山の真ん中には海軍の追浜飛行場の格納庫も作られ、航空隊の拡張で水路も狭くなった。野島運河が1945年頃に掘られ、現在では海外への主要な水路となっています。1965年頃六浦橋と内川橋の間から入り江の半分ほどが宅地に埋め立てられ、柳町が生まれより狭くなりました。今では瀬戸橋から夕照橋にかけての矩形型の入江ですが、シーサイドラインは平潟湾を横断するので、空中から全部を見渡せられる楽しみがあります。



ひ 350年ほど前、中国の高僧心越禪師が故郷の湖南省の景色(瀟湘八景)に似ていると、日本で初めて八編の詩に詠ったのが「近江八景」でした。その後、各地の景勝地に(八景)が生まれましたが、いまでも金沢八景の名が残っているのは広重の浮世絵と京急の駅名のお陰だと思っています。初めて金沢の地名を付けて金沢八景としたのは心越禪師で能見堂を中心に詠んだようです。私の想像になります。広重はその後干拓や埋め立てで眺望もかわり、現在の金沢八景駅から横須賀方面に向かった坂の途中、左奥の「金龍院」の中にある展望台「九覧亭」からの眺めを描いているのではないかと思えます。広重は瀬戸橋そばの「東屋」に逗留していたことですから、現在市は市登録指定となり登れませんが、頂上には茶店もあり、1960年頃、私も上ったことがあります。

「認知症」講演会、新鮮な感動 このまちで自分らしく生きるために

大变身近となってきた「認知症」、不安や悩みも多く今回港南区でクリニックを開業、現在は看取りや終末医療にも対応するほか、地域と連携しながら認知症の診療にも携わる「つながるクリニック院長」八森淳さんにお話を伺いました。70枚ほどのスライドで紹介されたお話は新鮮で貴重なことばかり、今回はその中からキーポイントともいえる左記の4枚のスライドに絞って紹介します。

健康寿命の最強の条件 脳と幸せのために最も重要なこと 良い人間関係

頼れる人がそばにいるという環境 神経系が緊張から解放される 脳の健康が保たれる期間が長くなる 心と体の苦痛が和らげられる等の効果

信頼 人と人とのつながり 助け合い 地域の底力

認知症予防によい雰囲気 自分が大切にされている感じ 温かい 安心 優しい 褒め合う お互い様 頼り・頼られる

高齢になるにつれ考えるようになってくるのは、「いつまでも健康のまままで終末を迎えたい」ということでしょう。その「健康寿命」、更には「脳」にも最強な条件とは何かを示されました。それは「より良い人間関係」とか、頼りになる人がそばにいるという環境なのだと言います。家族、友人、コミュニティ等、周りとのつながり、身近な人たちとの関係の質、良い関係は脳も守ると解説。更に長生きの秘訣は、タバコを吸わない、お酒を飲み過ぎない、身体を動かす、太りすぎないというこれまでに言われてきていることよりも「つながりがある」ということの方が効果が大いというのです。これは米国ハーバード大学

の研究者たちがアメリカや日本など世界の国と地域を対象に96年からの大規模調査にもとづくもので、日本文化の中にある強い「ソーシャル・キャピタル(社会や地域における、人々の信頼関係・結びつき)」が長寿国・日本に大きく影響しているようです。人と人とのつながりの3要素 信頼・助け合い・社会ネットワークという地域の底力を強めることが、認知症予防に良い雰囲気や環境づくりになるということでお話は締められました。参加者からは、分かりやすい解説、新鮮な感動等の感想が出されていました。

